



西日本菊花大会

内閣総理大臣賞に、盆栽の部より長谷川良治氏

西日本最大の菊花の祭典、西日本菊花大会(主催 宗像大社菊花会(千々和正信会長)、宗像観光協会(吉武邦彦会長)、後援 福岡県外)が、先月二十三日迄盛大裡に開催された。

この菊の祭典は昭和四十六年の大造営を奉祝する神賑行事の一つとして、同年第一回大会が開催され、今年で三十六回目となる。

境内には九州各県、山口の菊愛好家約二〇〇人から、丹精込めて育てられた菊約三〇〇〇鉢が出品され質・量ともに西日本最大である。

開催にあたってはまず十月下旬宗像地区商工会青年部の有志によるハウス設営奉仕、翌日宗像大社菊花会員によるハウス組立奉仕が行われ、二十九日には協賛会社奉仕トラックで南は鹿児島、西は長崎、東は大分、北は山口から菊花が一同に境内に搬入された。また、毎年恒例となった



宗 像

12月祭事暦

毎月1・15日	つきなみ 月次祭
午前10時	高宮祭
第二宮・第三宮祭	引き続き 宗像護国神社
月命日祭(1日)	巡 拜(15日)
午前11時~	総社祭
浦安舞奉奏(1日)	豊栄舞奉奏(15日)
17日	
午前6時~	古式祭
午前6時30分~	御座
午前10時~	鎮火祭
19日	松尾神社祭
午前11時~	
23日	天長祭
午前11時~	
31日	
午後3時~	年越しの大祓式 引き続き 除夜祭

境内を彩り約一ヶ月間に亘り、御参拝の皆様を楽しませた西日本菊花大会も盛大裡に終了した。担当者の一人として、この大会のお世話をさせて頂いた。き早三年目になる▼社務とはいえ、これまでは菊を見ても「きれい」「すごい」等の言葉しか出なかつた。それが、出品者の方と関わるとなると、なせ菊を作るのか、また、製作方法等次第に興味湧き、少しずつ菊が好きになつてきた▼菊の見方、作り方などを伺い、菊についての学び始めたが奥が深すぎ容易にいかず、現在は自分自身のテーマを決めて取り組んでいる▼今年のテーマは盆栽の型。出品者の方にマンツーマンで教わり、岩付・木付・直幹・懸崖・根連り・寄植えなどある程度盆栽の型を覚えることができた▼ある盆栽菊の作品に枯れた菊が混ざっていた。尋ねると、出品者も考えた末にそのままにしたと教えられた。なぜなら、山でも枯れ木はあるだろうと一言。その枯れた菊を取り除かず全体の調和でその作品を見ないといけないと教えられた▼菊について学び始めたとき大それたことを言ってみたら、先の長い勉強となるだろう。来年は出品者の方からどの菊について教わるか今から楽しみにしている。(A・I)



神具・装束 結婚式場調度品

福岡店 〒812-0045福岡市博多区東公園2-31
電話 福岡(092)651-9456番

井筒 本店 〒600-8231京都市下京区油小路六条北入
電話 (075)341-3341(代)~4番
(075)343-3341番

木組の家 匠の技

総合建築業 株式会社 弘江組

〒811-3406福岡県宗像市稲元1025 電話(0940)32-2567



地元、宗像市立玄海小学校の児童による菊花も展示され、境内に一層の彩りを添えた。

そして今年で三十二回目となる九州菊花連盟九州大会が、十一月六日〜十三日迄、境内手水舎裏にて行われ、切花競技、鉢物競技が行われた。

本年からの新たな菊花として、儀式殿前に大分県中津市在住の古原正則氏奉納による菊人形(おじゃる丸・おかめ姫・ももじ)が展示され、訪れる参拝者、七五三の稚児達の写真撮影が絶え間なく続き行列が出来ていた。

大会審査は、十一月一日午前十時から、福岡県農業試験場園芸研究所花き部長 中村



新一氏を審査長として、総勢七名で終日行われた。

出品は、大輪・盆栽・懸崖・特作・九州山口各県対抗大輪補助特別競技の五部門に分かれ各々非常に厳しい出品基準、審査基準により作品の競技がなされ、上位三位には内閣総理大臣賞、農林水産大臣賞、文部科学大臣賞が授与された。

十一月十九日には、神島宮司、千々和宗像大社菊花会会長、吉武宗像観光協会会長、宗像市長、福津市長、衆議院議員渡邊具能氏らの来賓に受賞者約100名が出席し、アクシス玄海にて表彰式が午前十時より行われた。



期間中境内では、当社の勅使館を開放した「茶房」、菊みくじ、菊苗売場、植木市、そして宗像観光協会による宗像の特産品の販売を行う「いっぽく茶屋」も設置され、平日も境内は大変な賑わいを見せた。

また、夜間菊に照明を当て夜菊も観賞いただけるように、日没から午後九時まで、心字池周辺をライトアップし、境内を幻想的に演出した。

最後に、この菊花展開催にあたり、ハウスの設営、組立、菊花の運搬、また、広報花壇の設置等にご協力頂きました奉仕者の皆様へ誌面を借りまして、心より御礼を申し上げます。

各賞、受賞者は下記の通り(敬称略)

内閣総理大臣賞	長谷川 良治	城南区	大分県知事賞	豊原 勇	別府市	福岡県農業協同組合中央会長賞	古川美代子	小倉南区
農林水産大臣賞	時田 義光	鳥栖市	福岡県議会議長賞	成田力オル	水巻町	福岡県観光連盟会長賞	二見 理平	都城市
文部科学大臣賞	和田 太義	山口	福岡県町村会会長賞	大畑 茂敏	小倉南区	福岡農林事務所所長賞	倉田 好雄	戸畑区
総務大臣賞	池田 昭	八幡西区	福岡県町村議会議長賞	高地 良	福岡市	(社)福岡県中小企業経営者協会賞	渡部 享典	小倉南区
法務大臣賞	田中 昭治	前原市	福岡県教育委員会賞	高棕 静男	遠賀町	福岡産業振興協議会	野村 勝美	小倉南区
外務大臣賞	前井 弘己	嘉穂郡	九州・山口花弁園芸連絡協議会長賞	中垣 静男	三井郡	福岡県花弁園芸組合連合会長賞	御田 良知	太宰府市
財務大臣賞	倉田 征喜	大野城市	九州旅客鉄道社長賞	岡田 禎子	大野城市	福岡県花卉市場協議会長賞	井手 直義	太宰府市
厚生労働大臣賞	三口 澄夫	宗像市	福岡県農協同組合中央会長賞	野村 義光	東区	福岡県花弁園芸組合連合会長賞	古賀 秋吉	門司区
経済産業大臣賞	宮末 実	田川郡	福岡県農協同組合中央会長賞	野村 藤子	嘉穂郡	福岡県花弁園芸組合連合会長賞	田中マサユ	甘木市
国土交通大臣賞	野地 隆治	武雄市	福岡県農協同組合中央会長賞	馬場 馨	宗像市	福岡県花弁園芸組合連合会長賞	森 弘喜	宗像市
環境大臣賞	野村 義光	東区	福岡県農協同組合中央会長賞	宮野 克己	朝倉郡	福岡県花弁園芸組合連合会長賞	高崎 里治	福智町
内閣官房長官賞	重光由紀子	宗像市	福岡県農協同組合中央会長賞	田中 和夫	遠賀郡	福岡県花弁園芸組合連合会長賞	三口 澄夫	宗像市
防衛庁長官賞	松尾 常喜	大野城市	福岡県農協同組合中央会長賞	佃 俊美	田川郡	福岡県花弁園芸組合連合会長賞	石原 陸生	宮崎
衆議院議員山崎 拓賞	和田 太義	宇都市	福岡県農協同組合中央会長賞	占部 正彦	宗像市	福岡県花弁園芸組合連合会長賞	林田 憲治	田川市
衆議院議員渡辺 具能賞	石原 睦生	都城市	福岡県農協同組合中央会長賞	松野 正徳	小倉南区	福岡県花弁園芸組合連合会長賞	高山 健次	嘉麻市
宗像大社宮司賞	保田 直宏	京都郡	福岡県農協同組合中央会長賞	妹川 尚生	山田町	福岡県花弁園芸組合連合会長賞	塩井 朝人	八幡東区
九州農政局長賞	浜田 豊子	粕屋町	福岡県農協同組合中央会長賞	御田 良知	太宰府市	福岡県花弁園芸組合連合会長賞	安田 剛	始良郡
福岡県知事賞	田畑 実志	八幡東区	福岡県農協同組合中央会長賞	深川ユキ子	小倉南区	福岡県花弁園芸組合連合会長賞	川崎 新一	宮崎
福岡県知事賞	宮原 善枝	宗像市	福岡県農協同組合中央会長賞	白壁 富士夫	大野城市	福岡県花弁園芸組合連合会長賞	永田ツルミ	宗像市
福岡県知事賞	古原 正則	中津市	福岡県農協同組合中央会長賞	佐藤 秀俊	行橋市	福岡県花弁園芸組合連合会長賞	初井 弘己	嘉穂郡
福岡県知事賞	生武 静男	鳥栖市	福岡県農協同組合中央会長賞	関本 和代	飯塚市	福岡県花弁園芸組合連合会長賞	野中 昭夫	西松浦郡
福岡県知事賞	赤金 順一	大野城市	福岡県農協同組合中央会長賞	丹下 民平	戸畑区	福岡県花弁園芸組合連合会長賞	坂本 栄	中間市
福岡県知事賞	山本 正和	小倉北区	福岡県農協同組合中央会長賞	犬童 重光	八幡西区	福岡県花弁園芸組合連合会長賞	安田 剛	鹿児島
福岡県知事賞	鳥巢 敬次	八女市	福岡県農協同組合中央会長賞	見城 秀樹	大野城市	福岡県花弁園芸組合連合会長賞	関師 章夫	佐土原町
福岡県知事賞	生武 静男	鳥栖市	福岡県農協同組合中央会長賞	川崎 新一	北諸県郡	福岡県花弁園芸組合連合会長賞	花田 憲一	若松区
福岡県知事賞	相川 正春	大村市	福岡県農協同組合中央会長賞	富金 原正史	宗像市	福岡県花弁園芸組合連合会長賞	塩井 朝人	八幡東区
福岡県知事賞	松尾 常喜	大野城市	福岡県農協同組合中央会長賞	青木 利康	小倉南区	福岡県花弁園芸組合連合会長賞	大塚 孝二	大分市
			福岡県農協同組合中央会長賞	豊原 勇	別府市	福岡県花弁園芸組合連合会長賞	木下みつ子	大野城市

※以下、受賞者につきましては、紙面の都合上割愛させていただきます。受賞された方々の更なる御健勝を御祈念申し上げます。

沖・中両宮秋季大祭齋行

御嶽神社祭、宮崎地区で厳島神社祭を

筑前大島・中津宮では慣例により旧暦で祭典が行われる事が多く、中津宮の春秋大祭もそのひとつであり、本年は十一月五日(旧暦九月十五日)に恒例の沖津宮・中津宮秋季大祭が斎行された。



秋の大祭では古くから島内各地区より演芸の奉納もあり、毎年盛り上がりを見せており、大祭前日には沖・中両宮奉賛会(佐藤千里会長)、同翼賛会(上野美実会長)のご奉仕により立派な舞台も完成した。明けて大祭当日は天候に恵まれ、十一月とは思えない程の陽気の中、沖津宮遙拝所で沖津宮大祭、大島の最高峰に鎮座する御嶽山頂で



氏子奉幣使として御奉仕いただいた河野幸一氏

それぞれ齋行。その後、午前十一時から中津宮で秋季大祭が斎行され、神島宮司を祭主に、氏子奉幣使として河野幸一氏(大島・西区)が奉仕し、厳粛に祭典が行われた。祭典後の午後一時半からは奉納演芸大会が始まり、各地区から舞踊や演芸、カラオケなどの手作りの出し物が披露され、大勢の観客が境内を埋め尽くす中、出演者がお祝いに鈴やお菓子などを撒いたりしながら、約二時間に亘り賑わいを見せ、本年の沖・中両宮秋季大祭を無事に終了した。

葦津宮司二十年祭

十月二十九日、葦津嘉之宮司の二十年祭が執り行われた。

祭典は箱崎の葦津家で、喪主・葦津宮司のご長男葦津敬之氏(神社本庁主事)が勤められ、斎主を当大社葦津幹之禰宜(次男 奉仕により、ご遺族・ご親族を始め、ご親友、又当大社より養父・太田両名宮司、神島宮司参列のもと齋行された。

葦津宮司は昭和三十四年、神宮より当大社権禰宜として赴任、当時の大社は、戦後の混乱した社会情勢の中で、財力も乏しく、未だ荒廃の状態にあった御社の復興を生涯の悲願とされ、出光

興産店主出光 佐三翁のご援



を往古の姿に復興すべく心血を注がれ、昭和の大造営を進められた。大造営後、昭和四十七年久保宮司の後任として宮司に就任後も、神苑の護持と拡張にと休む間もなく東奔西走し続けられ、第二宮・第三宮の再興、神宝館・儀式殿の建設とその秀でた手腕と行動力によって、次々に御造営を進められ、今日の宗像大社を築き上げられた。

奉職以来二十八年間に亘り御神徳の宣揚と維持運営に献身的奉仕に徹せられ、昭和六十一年十一月八日、帰福途中の航空機内で急性心不全により、五十四年という短い生涯を終えられた。年祭終了後、ホテルニューオータニ博多に於いて直会の席が設けられ、参列者一同葦津宮司の在りし日に想いを馳せながら、偲びの一刻を過ごした。



忘れし日の葦津宮司と出光店主



古賀市の小田勉氏

「信国」の刀を奉納

11月18日、古賀市在住の小田勉氏より刀一口が奉納された。

奉納刀は、筑前国(現・福岡県)の刀工作で、銘 筑州住源信国重包 茶色塗鞘拵付である。小田勉氏の御先祖は、黒田藩の儒者の家系で家訓により所蔵の刀剣は門外不出とされていたが、当大社開催の刀剣展にも例年御好意により出品していただいております、今回の奉納となった。

当日は、午前11時から本殿で奉納式齋行。続いて、神島宮司より感謝状、記念品の贈呈、その後勅使館で直会となった。

小田氏他お孫さんも含め十名が参列され神島宮司、高向権宮司他担当職員、当大社の刀剣を管理いただいている藤川宣重神宝館元館員らで接遇した。

直会は、終始和やかなムードで進み、小田氏や親類の方々には、祭典を行い直会をするという神人和楽の姿を充分堪能いただいたように思う。



小田氏の御好意によって奉納された刀を、当大社は責任をもって後世に伝えていきたいと切に思う。

第三十五回 宗像大社献詠短歌大会

福岡県知事賞に福岡市の山崎 碧さん

第三十五回宗像大社献詠短歌大会(主催 宗像大社歌会・毎日新聞社、後援 福岡県他)が十一月十八日(土)午前十時から当大社清明殿で開催された。

選者には今大会講師の桜川 牙子先生、中西輝磨先生、山崎源太郎先生、青木昭子先生、大野展男先生の五名をお招き

した。当日は生憎の雨が降る少し肌寒い天候であったが、境内では菊花展が開催されており、七五三詣や観菊者で賑わう中、約五十名の参加があった。

先ず、今回事務局に寄せられた参加者直筆の詠草一三七首を神前に捧げ神事を行い、参加者は神妙な面持ちで臨んだ。そして高向権宮司がこの短歌大会の歴史を交えての挨拶を行った。

続いては、例年参加者が楽しみにしている講演には福岡市より桜川牙子先生をお招きし、「おいしい短歌」現代短歌

の魅力」の演題による貴重なお話を拝聴した。先生は青山学院大文学部を卒業後、福岡女学院高で教鞭を執られる傍ら、「長風」に入会(同九年まで)、同八年に長風新人賞を受賞。同九年からは「かりん」に入会し、馬場あき子氏に師事、第一歌集『六月の扉』を上梓している。現在、かりん福岡支部長、福岡市歌人会理事を務めると共に、現代歌人集人会の会員である。平成十五年には第二歌集『月人(つきびと)の(こ)』を上梓、福岡市文学賞を受賞されている。現在四十五歳。

講演は、万葉集にある宗像神に関わる大伴坂上郎女の歌「大汝少彦名(おほにほひこ)の神(かみ)こそは 名(な)づけそめ(め)け(け)め 名(な)のみを名(な)児(こ)山(やま)と負(お)ひて わが恋(こ)の千重(ちぢゅう)の一重(いちぢゅう)も慰(なぐさ)めなく(な)に」を最初に取り上げ、万葉集の枕詞は現代短歌にも生きていると、現代歌人の短歌も取り上げ、「おいしい」部分を



▲講師の桜川牙子先生

解説いただき、参加者は真剣に聞き入っていた。午後からは、選者それぞれが担当する歌を順番に批評していただき、表彰式を行い無事に閉幕した。

また宗像大社歌会独自の運営が困難ということで、今回が最後の大会として開催された入選歌並びに各賞受賞者は次の通り(敬称略)

【特別賞】
福岡県知事賞
山崎 碧(福岡市城南区)
枯れ草のなかにほつほつ土筆坊
雨余の河原の春の紋章
福岡県教育委員会賞
高屋淳子(福岡市東区)
すれ違(すれちが)う若(わか)き力(ちから)士(し)ら巨(こ)体(たい)からあふれるばかりにコロンが香る
宗像市長賞
下田朝子(福岡市南区)
戦場にみたまとなりし投手あり、
ゆめ兵器なる斎藤佑樹
宗像市教育委員会賞
木原房子(宗像市大井)
天つ媛(ひめ)祀(まつり)りし伊野(いの)の神苑(かみづの)の
深(ふか)き木立(きだて)に汗(あせ)のひきゆく
毎日新聞社特別賞
巻(まき) 桔梗(ききょう)(宗像市田久)
ま冬(ふゆ)日の夕(ゆふ)かたまでとともる神燈(かみづの)の
ほのぼの明(あ)かり高宮(たかみや)のへの道

【選者賞】

宗像大社歌会会長賞
長井祝子(福岡市早良区)
宗像大社氏子会会長賞
高田弘志(大野城市南ヶ丘)
宗像大社賞
大畑真紀子(山口県下関市)
永富 臻(宗像市池田)
毎日新聞社賞
石松知子(宗像市日の里)
高田弘志(大野城市南ヶ丘)
浜口秋雄(中間市深江)
北崎 薫(古賀市)

宗像大社宮司賞
宮原ますみ(福岡市城南区)





十一月十六日午前十一時より新年に頒布する神宮大麻並びに宗像大社神符頒布始祭が、当大社祈願殿で阿部信宗像支部副支部長(宮地嶽神社禰宜)斎主のもと齋行された。

当日は福岡県神社庁田村靖邦氏(宮崎宮司)をお迎えし、当大社神島宮司高向正秀宗像支部長(当大社権宮司)を始め、宗像支部内の神職・氏子総

神宮大麻並びに宗像大社神符頒布始祭齋行

十一月十六日午前十一時より新年に頒布する神宮大麻並びに宗像大社神符頒布始祭が、当大社祈願殿で阿部信宗像支部副支部長(宮地嶽神社禰宜)斎主のもと齋行された。



表彰を受けられた方々は次の通り

宗像大社氏子評議員 宮本 俊二(宗像市大島)
 宗像大社氏子評議員 塚本 義人(福津市東福岡)
 織幡神社 総代 七田 勝(宗像市鐘崎)
 宗像大社 権禰宜 杉山 安彦

代約一六〇名が参列し、「神宮大麻」は沖宗宗像支部神社総代会会長に、「宗像大社神符」は安部照生宗像大社氏子会会長へとそれぞれ手渡された。

祭典後、清明殿で式典が開催され、永年に亘り斯界に寄与された神社功労者の表彰伝達式が行われた。

太宰府天満宮親善野球大会

~宗像大社の連勝は3でストップ~



試合は序盤から当大社が優勢に進め着実に得点を重ねるも、先発長友が四回早く

十一月六日、恒例の太宰府天満宮との親善野球大会が、福津市「あんずの里運動公園」球場(秋季は当大社当番)で行われた。前日の雨で開催が多少心配されたが、なんとか持ちこたえ予定通り午後三時よりの試合開始となった。

もバテ始め、被安打・四球を連発し逆転を許すと、以降は逆転に次ぐ逆転で選手・ベンチ共に大盛り上がり、シーズーゲームとなり、最後は当大社の裏の攻撃を残しながらも六回表で時間切れ。結局十対九で惜敗し当大社の連勝は三でストップとなった。試合後は当大社「五月寮」において太宰府天満宮 西高辻宮司、当社神島宮司出席の下、それぞれ後発の面々も加わり総勢八十名の懇親会が行われ、より一層の親睦を深めた。



番組放送のお知らせ

既に始まっている番組もありますが、以下3番組が放送される連絡を受けましたので、お知らせいたします。

①「さわやか自然百景～福岡・沖ノ島～」 NHK制作(全国放送)

世界遺産を目指す島「沖ノ島」。この島を文化・歴史面で捉えた番組は数多く放送されてきましたが、この度NHKが沖ノ島の自然を中心に番組を制作。今年の9・10月と島に渡り、オーストラリアや東南アジアから毎年繁殖に渡ってくる10万羽に及ぶ「オオミズナギドリ」を中心に取材しました。意外と知らない沖ノ島の自然を御覧下さい。

11月25日(土)	7:30~ 7:44	BShi
11月26日(日)	7:45~ 7:59	総合テレビ
11月30日(木)	11:05~11:19	総合テレビ
12月 1日(金)	11:40~11:54	衛星第二
12月 2日(土)	5:00~ 5:14	教育テレビ
12月 3日(日)	5:00~ 5:14	衛星第二

②「窓を開けて九州」 RKB毎日放送制作(九州6局ネット)

当大社沖ノ島勤務の交代船「宝栄丸」の船長佐藤守さんに密着。沖ノ島の中でも、秘密のバールに包まれた場所「黄金谷」に初めてカメラが入りました。

12月17日(日) 10:00~(15分)

③「新・九州遺産 波濤を越えて～玄界灘の四季～(仮)」 RKB毎日放送(九州6局ネット)

JNN九州沖縄7局(TBS系列)が'97年から続けているシリーズ「九州遺産」。2000年度の第4回シリーズでは沖ノ島を中心に宗像三宮を取り上げられ「神の宿る島～海の正倉院・沖ノ島～」はビデオを制作し、社頭頒布した程の作品でした。今回の第6回シリーズは、範囲が拡がり福岡～佐賀にまたがる玄界灘の四季を見詰めます。沖ノ島をはじめ、志賀海神社、能古島、名護屋城、対馬、壱岐などが登場します。

放送日未定(年末になる見込みのようです)



(続)

決の寄物

220

いしいただし



漂着物学会を開いた北海道・襟裳岬のあるえりも町郷土資料館には、この海岸で拾われたマンモスの臼歯が展示されている。二個あったが一個は焼失している。

学会の前日に、北海道・様似町教育委員会の田中正人氏や学会員の林重雄氏ら数人と、



ナウマン象の親子

中川郡幕別の忠類ナウマン象記念館に行った。様似から車で約一時間半ほどであった。

一九六九年(昭和四十四年)夏・忠類村晩成の農道工事中にナウマンゾウの骨が発見され、発掘調査は三回にわたって行なわれた。

ナウマンゾウは、日本を代表する化石ゾウで、北は

北海道から、南は沖縄まで見つかった。大陸と氷河で陸つづきであった頃に渡ってきたもので、二四万年前から二万年

前のリヌール氷期に日本列島全域にその分布を拡大したといわれる。日本人とも接触が推定されている。

香川県の瀬戸内海の海底からは漁船の網に臼歯や牙(切歯)がかかり「竜骨」と呼ばれたりし



ナウマン象と骨格

出地である。大分県大野郡・代ノ原では一九八一年(昭和五十六年)に国道五七号線



忠類ナウマン象館のナウマン象骨格

た。長野県・野尻湖では、野尻湖のゾウとして「野尻湖発掘調査団」が結成され、市民が中心となつて毎年冬になると発掘が行われている。岩手県・花泉町の花泉遺跡からはナウマンゾウやオオツノジカ、ハナイズミモリ

ウシなど著名な化石産



フクヤママウナシユ-ニムルナウマンゾウ臼歯

工事中に、ほぼ一体分の骨が発掘されている。



ネリモ田のマンモス臼歯

福岡県では、那珂川の支流・筑紫耶馬溪のところから、また北

九州市平尾台、糸田町からも臼歯が採集されている。忠類のナウマンゾウは成獣の雄であった。時代は四万数千年以前とされる。全骨格の七〇〜八〇%に当たる四七個あり、一体の骨格配列がもつともよく残された例で「皮や肉がついたまま埋もれたことは明らかで、発掘中にも、骨のまわりに脂肪物質がみられ、コーラゲンの存在も推定された」(旧石器人の生活と集団・講談社)復元骨格から頭の高さ二・四m、背の高さ二・一五m、全長四・三m、現世のアフリカゾウよりは小さい。

忠類ナウマン象記念館は発掘の経過や写真をパネルで紹介し、中央に全体骨格のレプリカが置いてある(忠類の骨格を

もとにして全国各地のナウマンゾウのレプリカがつくられている)。館の前の公園には、親子のナウマンゾウが復元され、時間になると鳴いていた。現生ゾウからの鳴き声を合成したものである。忠類村で発掘されたナウマンゾウの骨は、現在、北海道開拓記念館にある。

ナウマンゾウの名は、エドムント・ナウマン(一八五〇〜一九二七)の名からである。ナウマンはドイツ人の地質学者、ミュンヘン大学で学び、一八七五年(明治八)日本に招かれ、東京開成学校(後の東京帝国大学)で地質学を講じ、フォッサマグナ(大きな溝)を発見し、日本列島の生い立ちについて初めての体系的研究をなし、また日本のゾウ化石をはじめて研究したためナウマンに与えられたもの。



復元ナウマン象と臼歯



臼歯

厄年

厄年とは人生の節目であるとともに、一生のうちで災い・災難といった「厄」にあうおそれが多いため、忌み慎まねばならないという年です。

特に男性の四十二歳、女性の三十三歳は「大厄」とされ、その前後の年も「前厄・後厄」といつて、最も慎み忌むべき年とされています。

我々日本人の永年の生活習慣から発生した、我が国独自の慣習であり、厄年を迎えると我々の先祖は神社に足を運び、お祓いをうけ避けてきました。医学的にみても、男性の四十代は生活習慣病、女性の三十代は乳がん・子宮がんの発生率が高くなる年代で厄年とも符合します。神社でお祓いをうけ、この一年を清々しい気持ちでお過ごしください。

八方塞

はっほうふさがり
陰陽道でどの方向に向かって事を成しても、不吉の結果を生ずる年齢とされ、転居、結婚、新しく事をはじめの方は要注意と言われています。

暗剣殺

あんけんころし
「九星術」でその年の五黄土星と相對する方位で、最も慎まねばならないとされる大凶の年廻りと言われています。

厄年年齢表

昭和42年	昭和41年	昭和40年	昭和37年	昭和31年	昭和28年	昭和23年	昭和22年	昭和21年	昭和19年	昭和13年	昭和10年	昭和4年	昭和元年	大正9年	大正6年	生まれ年
前厄(男)	大厄(男)	後厄(男)・暗剣殺	八方塞	暗剣殺	八方塞	前厄(男)	大厄(男)・暗剣殺	後厄(男)	八方塞	暗剣殺	八方塞	暗剣殺	八方塞	暗剣殺	八方塞	厄
平成13年	平成10年	平成4年	平成2年	平成元年	昭和63年	昭和59年	昭和58年	昭和57年	昭和55年	昭和51年	昭和50年	昭和49年	昭和47年	昭和46年	昭和45年	生まれ年
暗剣殺	八方塞	暗剣殺	前厄(女)	大厄(女)・八方塞	後厄(女)	前厄(男)	大厄(男)・暗剣殺	後厄(男)	八方塞	前厄(女)	大厄(女)	後厄(女)・暗剣殺	前厄(女)	大厄(女)・八方塞	後厄(女)	厄

宗像大社 初詣 交通規制のお知らせ

期間	
●平成17年	12月31日午後9時から
平成18年	1月1日 午後9時まで
●平成18年	1月2日～1月4日
	午前9時から午後7時まで
※交通状況により、規制時間を変更することがあります。	

凡例	
	宗像大社順路
	一方通行
	歩行者用道路
	車両進入禁止
	交通信号機
	駐車場

初詣期間中、交通の安全と円滑を図るため、臨時交通規制を実施します。皆様のご協力をお願い致します。



第五四四回 宗像大社歌会詠草

大野展男選 毎月25日メ切

評 二、三句は原作では意味が通じない。二句は「見るのが」。結句も身内に
 対し「いませは」の尊敬語はおかしい。「遠くみるゆるる」とすべきである。

評 馬場に沿ひアワダチ草の色づけりトロットの少女にコーチの声飛ぶ
 乗馬クラブだろう。作者の少女に対するいたわりのところが見え、淡
 彩風のスケッチであるがよい。

評 玄海の追門ふたわけて御座船をまもりみちびく数百のふね
 みあれ祭を詠ったのだが、これでは新聞の記事とさして変らない。
 もっと突っ込んで詠って欲しい。

評 五時を過ぎ惣菜売場は五割引き若ききに混り一品を買う
 「一品を買う」は事実そのままだろうが、「いくつかを買う」とした方
 が売場の活気と混雑ぶりが出る。虚構ではない、詩的現実である。

評 黄に朱に敷き落葉の坂を来て御堂のわきの句碑に佇ちたり
 状景はすでに詠われて来たものだが、「坂を来て」で我に活気帯び
 た。短詩型では丁寧な描写が大切であるという教訓のような作。

評 秋耕の長き一日舞い降りて来し白鷺を友としたりて
 「したりて」のたりは完了の助動詞なので「友とす」と現在形にすべ
 き。三句以下は「吾がそばに舞ひ降りて来し鷺を友とす」とはいがが。

評 桜島その全体を熔岩のごとくに描きし垣田正弘
 桜島に魅せられて描いた画家は多いが、垣田正弘とはどんな人だろう
 が、知名度の程度もあり個々有名詞、特に人を歌に詠むのはむづかしい。

評 帰宅せば和服に着替え豆腐にて晩酌をせし夫はいまさら
 夫を偲人での歌、気持は判るが、池浦作品と同じく結句は再考して
 ください。

評 よちよちと足許に来るやはらかき子犬抱きて心なごめる
 「心なごめる」迄は言わない方がよい。
 三句以下「ま白な子犬を抱けばあややはらかし」などと。

評 毒花とか捨て小花とふ彼岸ばな今は柵田の風物詩となる
 自然破壊からやつと回帰の風潮となった象徴としての彼岸花である。
 彼岸花には六つの異称がありいかに庶民の花であったかが判る。

評 朝の冷え嘘のような暑し木葉もなべて水欲る形
 暑暑しと終止形にするとう句は俳句である。
 「暑暑く」と連用形にしたい。

評 半ズボンにプラモデル持つ七歳子二児の親となりくらしに追わるる
 年の経つことの早さをしみじみと感じている作者である、ただ歌と
 して同じ趣向のものが多くあることを知って下さい。

評 鳥料理やき鳥手羽揚げ次の品にわとり料理もうケッコ
 鳥と料理の韻を踏んで面白い、いかにも若々しい歌。
 三句は「次もまた」がよい。

評 コーヒーを飲みつつ聞こゆおれ人と若き女のちぐはぐな話
 株のこと語りてをりし老人らこの頃見えず喫茶ステーション
 裝すそ赤くひきつつ巫女さん茶を賣へる社の歌会の爺ばばたちに



第五一九回 俳句作品集

宗像市東郷宗風社俳句会 吉田 杏子
育てたる西瓜供えて頂きぬ

目高知らぬ子の多くなり陽のかける
田中 雨葉

ひと駅ごと街騒をぬけ鱗雲
木原 房子

池浚ふわれにまつわる赤蜻蛉
宗像市 東郷 田中 憲象

白神の踏むや滲む落葉かな

編集後記

「メタボリック
シンドローム」

「メタボリックシンドローム」について、以前この欄で触れましたら「メタボリックシンドローム」が「病名」か「病状」かという心配を皆様からいただきましたので、中間報告させていただきます。ウエストは計っていませんが、体重で約5kg、体脂肪で約2%落ちました。▼陽も短くなり、九州でも六時には暗くなりますが、なるべく歩くようにはしています。長続きしない割りには、我ながらよく続いていると考え、帰りが遅く自分自身がボジティブになつて居るので続けられているのかも知れません▼実際のこの裏付けを知りました。歩きはじめ15分でE(エネルギー)を活性化、楽しんでE(エネルギー)を考へ始めるが、20、30分でD(代謝)を考へ始めるが、40分でセロトニン(安定・充足感、考えをまとめる)といふ三種類のホルモンが脳内から分泌されるそうです▼メタボリックでない方も、何か考え事もある時には海や山の景色を楽しみながら、歩いてみてはいかがですか? (MO)

発行所 宗像大社事務所

〒811-3505 福岡県宗像市田島
 電話 0940-62-1311(代)
 発行人 伊藤佳和
 編集人 大塚宗延
 制作 セネラルアサヒ
 印刷 セネラルアサヒ

定価1年送料共1,000円